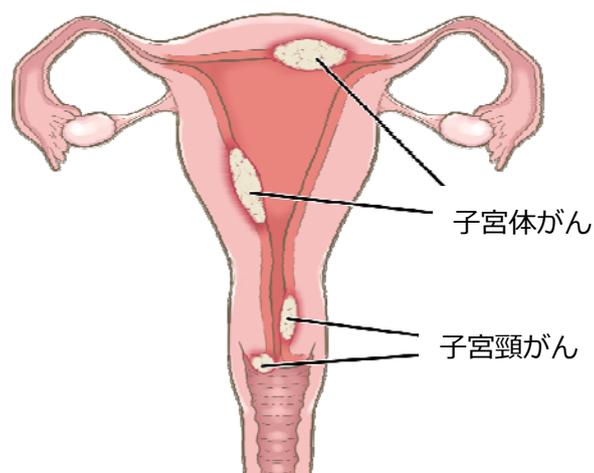


## 寿命調査の原爆被爆者における子宮がんの放射線リスク：1958-2009年

放射線を浴びると胃がん、肺がん、乳がん、白血病などのがんにかかりやすくなりますが（これを「がんのリスクが増える」と言います）、臓器によってこの「がんのリスク」の大きさが異なることが分かっています。

今回の研究は、放射線によって子宮がんのリスクが増えるのかについて、原爆被爆者の女性 62,534 人を対象に 1958 年から 2009 年のデータを用いて検証したものです。子宮がんは、子宮の入り口部分（頸部）に発症するものと、子宮の体部で発症するものがあります。

検証の結果、子宮体部のがんは、初経を迎える少し前に被ばくした場合はリスクが増える（幼い子供や大人になってからの被ばくではリスクは増えない）ことが分かりました。一方子宮頸部のがんはリスクが増えず、影響が見られないことが分かりました。



出典：株式会社クイック フリー素材

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。